

平成21年 6月 8日現在

研究種目：基盤研究（B）  
 研究期間：2006～2008  
 課題番号：18320084  
 研究課題名（和文） 「求められる日本語教員に日本語教員養成課程はどう応えるか」  
 に関する総合的研究  
 研究課題名（英文） Synthetic research on how the Japanese teachers training course  
 respond to Japanese teachers needed  
 研究代表者：  
 中川 良雄（NAKAGAWA YOSHIO）  
 京都外国語大学・外国語学部・教授  
 研究者番号：30261043

研究成果の概要：本研究・調査では、「多様化する日本語教員の需要に日本語教員養成課程はどう応えていけばよいか」を探るべく、「日本語コミュニケーション能力」「日本語教員の資質・能力」「日本語教員の行動特性」「海外の日本語教員養成課程」について、多角的なアンケート調査やインタビュー調査などを実施してきた。

結果として、それぞれの国ごと、機関ごとで求められる日本語教員像が浮き彫りとなり、日本語教員養成課程の教育内容をも検討することができた。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	5,000,000	1,500,000	6,500,000
2007年度	4,400,000	1,320,000	5,720,000
2008年度	4,900,000	1,470,000	6,370,000
年度	0	0	0
年度	0	0	0
総計	14,300,000	4,290,000	18,590,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・日本語教育

キーワード：日本語教員養成、コミュニケーション能力、実践能力

## 1. 研究開始当初の背景

近年の日本語教育を象徴するキーワードの一つとして「多様化」がある。日本語学習者や学習期間、学習形態の多様化に加えて、求められる日本語教員の多様化が挙げられる。

では大学等の日本語教員養成課程から輩出される日本語教員は、多様な学習、多様な機関のニーズに応えうるものになっているのだろうか。

日本語教員が備えるべき専門性や人間性とは何か。はたしてそれらは、機関ごとに異なり、個別に養成されなければならないのか。日本語教育に共通する土壌としての実践能力は存在するのか。大学の日本語教員養成課程は、どのような日本語教員の養成を目指していけばよいのか。

## 2. 研究の目的

(1)日本語教員が身につけなければならない

- い専門性や人間性の中身は何か。
- (2) 日本語教員に求められる資質や能力とはどのようなものか。
  - (3) それらをどのようにして身につけ、磨いていけばよいか。
  - (4) 日本語教員養成課程ではどんな授業科目(カリキュラム)を用意すればよいか。
  - (5) 求められる日本語教員に対して、日本語教員養成課程はどう応えていけばよいか。

等について明らかにする。

### 3. 研究の方法

本調査・研究では主に、

- (1) 調査票を用いたアンケート調査(国内外の日本語教員・学習者対象)
- (2) 統計処理ソフトを用いたデータ処理と分析
- (3) 日本語教員・学習者、機関を対象とした聞き取り調査による。

本調査・研究は、次の点において独創的・学際的であり、その成果と意義が期待される。

- (1) 日本語教員養成課程を持つ大学の集まりである、日本で唯一の協議会「大学日本語教員養成課程研究協議会」(大養協)を基盤とした調査研究であるため、包括的かつ総合的・学際的な結果が得られる。
- (2) 今後各大学での日本語教員養成と実習が恣意的に実施されるのではなく、明確なビジョンのもとに展開されるための提案となることが期待される。
- (3) 各大学の日本語教育実習のモデルの構築に役立つ。
- (4) 今後日本語教員養成において測られるであろう「実践能力」のガイドラインとなる。
- (5) 「日本語教育能力検定試験」において、

これまで測定されていない「実践能力」を測るためのガイドラインを投げかける。

- (6) 大学の日本語教員養成課程のカリキュラム作成及び個々の授業科目のシラバス作成の参考となる。
- (7) 「求められる日本語教員」に対し、日本語教員を目指す者(実習生)の努力目標としての指針が得られる。

### 4. 研究成果

本研究では、次の調査を実施し、成果を公表した。

- (1) 「求められる日本語教員」の資質・能力に関する調査
  - 日本語教員に求められる日本語コミュニケーション能力
  - 多文化共生社会における日本語教員の文化能力
- (2) 日本語教師が考える「優れた」日本語教師像と日本語教員養成制度に関する国際調査
  - 学校日本語教育における日本語教師が考える教師像
  - 日本語教員養成制度の国際調査
- (3) 実践能力に係わる基礎的、国際的調査の実施と実習に係わる実践研究
  - 日本語教師が必要とする実践能力に係わる国際調査
  - 「教育力」としての実践能力の定義と能力育成のための新たな教育制度の必要性
- (4) 韓国・タイ・中国の日本語教員養成
  - 韓国における日本語教育日本語教員養成の現状
  - 韓国における日本語教員採用試験の分析
  - タイにおける日本語教育と日本語教員養成
  - コンケン大学教育学部における日

本語教員養成課程

タマサート大学における日本語教員養成

中国における日本語教員養成の現状及びその問題点

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 29 件)

中川良雄 (2009)「日本人学生が考える日本語コミュニケーション能力」『研究論叢』第 72 号、有、京都外国語大学、PP.215-225.

中川良雄 (2008)「中国の日本語教員が考える日本語コミュニケーション能力」『大学日本語教員養成課程研究協議会論集』2006・2007、有、大学日本語教員養成課程研究協議会、pp.70 - 75.

中川良雄 (2008)「日本語教育と日本語コミュニケーション能力 台湾の高校生と大学生が考える日本語コミュニケーション能力」『総合学術研究』第 7 号、有、日本総合学術学会、pp.5-12.

中川良雄 (2008)「韓国の大学生が考える日本語コミュニケーション能力 中国・台湾の大学生との比較を通して」『研究論叢』第 71 号、有、京都外国語大学、pp.205-217.

小林明子・茅本百合子・縫部義憲(2008)「日本語教師が考える「優れた」日本語教師像に関する研究 ニューージーランドの高校教師を対象として」『日本総合学術学会誌』第 7 号、有、日本総合学術学会、pp3-20.

顔幸月・渡部倫子・小林明子・縫部義憲(2007)「台湾の大学生が求める日本語教師の行動特性 日本語専攻の場合」『日本語教育』133 号、有、日本語教育

学会、pp.67-76 .

高木裕子・佐藤綾・古内綾子(2007)「『日本国内』『海外』との比較に見るマレーシアにおける日本語教師が必要とする実践能力」『実践女子大学人間社会学部論集 第 3 集』、無、実践女子大学人間社会学部、pp.43-67 .

渡部倫子・佐藤礼子・狩野不二夫・縫部義憲(2006)「日本語学習者が求める日本語教師の行動特性 ニューージーランドの高校生と大学生を対象として」『日本教科教育学会誌』第 29 巻第 1 号、有、日本教科教育学会、pp. 59-68 .

高木裕子 (2006)「日本語能力検定試験と実践能力の関係」『大学日本語教員養成課程研究協議会 論集』2005、有、大学日本語教員養成課程研究協議会、pp.14-34 .

[学会発表](計 26 件)

中川良雄「日本語教育で求められる日本語コミュニケーション能力」(2008 年 12 月 13 日、日語教育・日本学研究国際学術研究会、中国・広東外語外貿大学)

佐藤綾・崔英淑・高木裕子「韓国の中等教育機関における若手韓国人日本語教師の実践能力の現状」(2008 年 7 月 13 日、日本語教育学世界大会 2008、韓国・釜山外国語大学校)

牧貴愛・馬場 良二「初等中等教員資格・免許制度に見る教師像の差異 日本と諸外国の比較分析」(2008 年 7 月 13 日、日本語教育世界大会 2008、韓国・釜山外国語大学校)

中川良雄「日本語教員の養成と日本語コミュニケーション能力 韓国・中国・台湾の大学生が考える日本語コミュニケーション能力」(2008 年 7 月 11 日、日本語教育世界大会 2008、韓国・釜山外国語大学校)

縫部義憲「豪州における高校日本語教師が考える「優れた」日本語教師像と教師の成長」(2008年5月31日、日本総合学会春季大会、岡山大学国際センター)

縫部義憲「日本語学習者と日本語教師が考える優れた日本語教師像に関する国際調査」(2008年4月26日、韓国日本文化学会主催第30回国際学術大会、韓国・韓国清洲大学校)

縫部義憲(2007)「オセアニアの学習者と教師が考える優れた日本語教師像」(2007年10月15日、日本語学・日本語教育国際シンポジウム、ハノイ国会大学主催・国際交流基金後援、ハノイ国会大学)

高木裕子・佐藤綾・古内綾子・齊藤禎子(2007)「海外派遣若手日本語教師が備えておくべき国別実践能力の内容と傾向」(2007年10月7日、2007年度日本語教育学会秋季大会、龍谷大学)

中川良雄「求められる日本語教員と日本語教員の養成」(2007年10月5日、2007年度日本語教育学会秋季大会、龍谷大学)

佐藤綾・高木裕子(2007)「世界的な流れの中で見る韓国における日本語教師が必要とする実践能力の傾向」(2007年9月9日、2007年度韓国日本語教育学会、韓国大邱市・ハンバット大学)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

中川 良雄 (NAKAGAWA YOSHIO)  
京都外国語大学・外国語学部・教授  
研究者番号：30261043

### (2) 研究分担者

なし

### (3) 連携研究者

河野 俊之 (KAWANO TOSHIYUKI)

横浜国立大学・教育人間科学部・准教授

研究者番号：60269769

坂口 昌子 (SAKAGUCHI MASAKO)

京都外国語大学・外国語学部・講師

研究者番号：60340428

高木 裕子 (TAKAGI HIROKO)

実践女子大学・人間社会学部・教授

研究者番号：80241165

縫部 義憲 (NUIBE YOSHINORI)

広島大学大学院・教育学研究科・教授

研究者番号：20131691

馬場 良二 (BABA RYOUJI)

熊本県立大学・文学部・教授

研究者番号：30219672

本田 弘之 (HONDA HIROYUKI)

杏林大学・外国語学部・教授

研究者番号：70286433